

Handwritten text in a cursive script, likely a manuscript or a page from a book, located at the top of the page.



目で見てわかる昔の日本語と今の日本語

タイムマシンに乗らずに行ける昔の世界

ワークブック

やまもと ひろふみ
山元啓史

Ph. D. in Linguistics

Handwritten text in a cursive script, likely a manuscript or a page from a book, located at the bottom of the page.

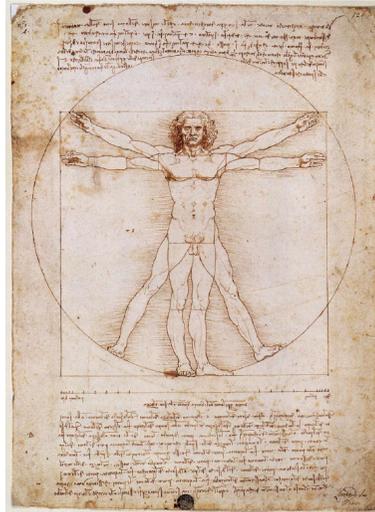
ひらめき ときめきサイエンス

目で見てわかる昔の日本語と今の日本語
タイムマシンに乗らずに行ける語の世界

ワークブック

Eureka Tinkle Science: Back to the World of Old Japanese

Workbook



この図は『ウィトルウィウスの人体図』といい、レオナルド・ダ・ヴィンチによって書かれたものです。レオナルドは建築家ウィトルウィウスの書いた本『建築論』の第3巻1章2節から3節の内容を読んで、これを次のように絵に書きました。文章を元に絵を書いたり、図にしたりすることを視覚化とか可視化（見える状態にすること）といい、英語では *visualization* と呼ばれています。

顎から額、髪の毛の生え際までの長さは身長 $\frac{1}{10}$ で、広げた手の手首から中指の先までも同じ長さである。首、肩から髪の毛の生え際までの長さは身長 $\frac{1}{6}$ で、胸の中心から頭頂までの長さは身長 $\frac{1}{4}$ である。顔の長さは、顎先から小鼻までの長さ、小鼻から眉までの長さ、眉から髪の毛の生え際までがいずれも顔の長さ $\frac{1}{3}$ となる。足の長さは身長 $\frac{1}{6}$ 、肘から指先まで、胸幅は身長 $\frac{1}{4}$ である。これらの他にも人体は対称的に均整がとれており、この対称性を用いて古代からの画家、彫刻家は後世まで賞賛される作品を創り出すことができた。

- Public Domainview terms
- File: Vitruvian.jpg
- Uploaded by Jkullinn
- Created: January 1, 1492
- This is a faithful photographic reproduction of a two-dimensional, public domain work of art. The work of art itself is in the public domain for the following reason:
- Public domain This work is in the public domain in the United States, and those countries with a copyright term of life of the author plus 100 years or less. This file has been identified as being free of known restrictions under copyright law, including all related and neighboring rights.
- The official position taken by the Wikimedia Foundation is that "faithful reproductions of two-dimensional public domain works of art are public domain". This photographic reproduction is therefore also considered to be in the public domain. In other jurisdictions, re-use of this content may be restricted; see Reuse of PD-Art photographs for details.

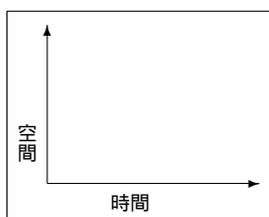
目次

第 1 章	はじめに	1
1.1	ことばについて話そう！	1
1.2	昔のことばってどんな意味？	2
1.3	知っている昔のことばを書いてみよう！	2
1.4	昔のことばを読んでみよう！	3
1.5	リサーチクエスチョン	6
第 2 章	材料	7
2.1	文を作る	7
2.2	文節に分ける	7
2.3	単語に分ける	8
2.4	ペアを作る	9
第 3 章	方法	11
3.1	めずらしい語とどこにでも見られる語	11
3.2	「文書頻度」という考え方	11
3.3	単語に重さをつける	12
3.4	<i>idf</i> の計算方法	12
3.5	<i>tf·idf</i> の計算方法	13
3.6	対数	13
3.7	グラフ理論超簡単入門	14
第 4 章	結果	15
4.1	知りたいことばをプリントアウトしてみよう！	15
4.2	2つのことばを比較しよう！	16
第 5 章	考察	17
5.1	ことばの意味はどんな意味？	17

5.2	この意味はいつまでこの意味？	17
第6章	おわりに	19
6.1	ここまでをまとめてみよう!	19
6.2	今日のセミナーを夏休みの自由課題に	20
付録A	うぐいすの歌	21
付録B	ほととぎすの歌	23
付録C	春と秋のネットワーク	25

第1章

はじめに



1.1 ことばについて話そう！

問1 世界に言語はいくつあると思いますか。となりの人と話してみましよう。

問2 知っている言語の名前を書いてみましょう。

問3 外国語が話せる人は自己紹介を外国語でしてみましょう。

問4 世界の言語の中で日本語はどんな特徴があると思いますか。(国語便覧 p.232)

問5 日本語の品詞を書いてみよう。名詞、動詞、他に何があるだろう。

問6 英語の品詞を書いてみよう。noun, verb, 他に何があるだろう。

問7 日本語の文の成分を書いてみよう。

問8 英語の文の成分を書いてみよう。

問9 日本語と英語の文の成分でいうとどんな語順になるだろう。

1.2 昔のことばってどんな意味？

同じ形の単語でも、その単語の意味は時代につれてどんどん変わっていきます。

問10 昔の日本のことばを想像してみよう。

問11 未来の日本のことばを想像してみよう。

1.3 知っている昔のことばを書いてみよう！

問12 テレビで見えるお侍さんのことばでもいいし、童話に出てくるお姫さまのことば

でもいい。たくさんに書いてみよう。

問 13 国語便覧を見て、昔のことばを探して、書いてみよう。

問 14 国語便覧を見て、今と意味の違うことばを探してみよう。

問 15 昔のことばと今のことば、何が違うと思いますか。

問 16 なぜ意味はかわったのか、話し合ってみましょう。

1.4 昔のことばを読んでもみよう！

問 17 和歌はどんな文学ですか。国語便覧 (p. 46-7) を見てみよう。

問 18 古今和歌集はどんな作品でしょうか。国語便覧 (p. 58-9) を見てみよう。

問 19 絵を見ながら、つぎの和歌を読んでもみよう。どういう場面か話してみよう。

もみじ葉を 袖にこき入れて 持ていでなむ
秋は限りと 見む人のために

(309 素性法師)

古今和歌集 309 素性法師



2004 APRIL 19

PAINTING BY YOSHIO YAMAMOTO

素性法師（そせいほうし）はこの歌の作者です。お父さんの遍照（へんじょう）といっしょにキノコ狩りに出かけた時にこの歌を詠みました。

問 20 今度は絵はありません。つぎの歌を読んで、その場面を考えてみよう。

おりつれば 袖こそ匂へ 梅花
ありとやこゝに 鶯のなく

(32 読人不知)

1. おり = 折る
2. つれ = 完了・強意の助動詞「つ」の已然形「～てしまった」
3. ば = 「ば」の意味は何か。 答:
4. こそ = 強調
5. 匂へ = 匂うのでしょうか
6. あり = あります
7. とや = ...といっつか、
8. こゝに = ここに...「ここ」とはどこか。 答:
9. 鶯のなく = 鶯が鳴く

問 21 鶯はどんな鳥だと思いますか。

問 22 鶯と梅はどんな関係があると思いますか。

問 23 「うぐいす」と「ほととぎす」の絵（図 1.1）を見て、2 鳥はどう違うと思いますか。



図 1.1 うぐいす（左）とほととぎす（右）

問 24 つぎの歌は古今和歌集(905年頃成立)に見られる「鶯(うぐいす)」「郭公(ほととぎす)」の和歌です。それぞれの歌はどんな感じがしますか。

- 雪のうちに / 春はきにけり / 鶯の / こほれる涙 / いまやとくらん(二条后4)
- 我やとの / 池の藤なみ / さきにけり / 山郭公 / いつかきなかん(読人不知 / 人麿 135)

1.5 リサーチクエスチョン

では、これからリサーチクエスチョンを作ろう。

問 25 リサーチクエスチョンとは何だろう。想像して話し合ってみよう。

問 26 どんなことがわかっていないか、何を知りたいか、考えてみよう。

第2章

材料

昔のことばは現代のことばと意味が同じなのかどうかよくわかりません。そこで、昔のことばの出ている文を選んで、比較できるようにします。

2.1 文を作る

問 27 まずは簡単な文を自分で書いてみましょう。

2.2 文節に分ける

文をいくつかの部分に分けたことがありますか。文に分ける方法にはいくつかあります。ひとつは文節に分ける方法で、もうひとつは単語に分ける方法です。

文節に分ける方法は簡単です。文を読みながら、「さ」「ね」「よ」が入れられるかどうか、入れられるときは、そこで文を切ります。この時の文を分けたひとつを「文節」といいます。これを考えた人は橋本進吉（はしもとしんきち、1882年12月24日 - 1945年1月30日）という日本の言語学者で、この人の考えた文法は橋本文法と呼ばれ、今日の学校で教えられているものです。

問 28 今書いた文を「文節」で分けてみましょう。

問 29 次の文を「ね」を入れながら、文を読んで文節で分けてみましょう。

1. 坊主が屏風（びょうぶ）に上手に坊主の絵を描いた。
2. この釘はひきぬきにくい釘だ。
3. お綾や、親にお謝り！お綾や、「お湯屋に行く」と八百屋にお言い！

問 30 簡単な文を作って、「ね」を入れながら、文を読んでみましょう。

問 31 文節には、はどんな特徴があるでしょうか。

2.3 単語に分ける

単語に分ける方法について考えましょう。

問 32 さきほどの文節に分けたものを、もっと小さく単語に分けてみましょう。

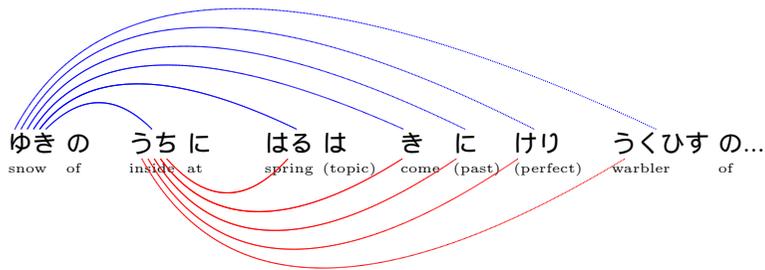
問 33 次の文を単語に分けてみましょう。

1. 私は今日初めて東京工業大学に来ました。
2. どこで生まれたかほとんど見当がつかぬ。（夏目漱石：吾輩は猫である）
3. ある日の暮れ方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。（芥川龍之介：羅生門）
4. 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。（川端康成：雪国）

2.4 ペアを作る

和歌「雪のうちに 春はきにけり 鶯のこほれる涙 いまやとくらん」を任意2つずつの単語を組み合わせて、パターンを作ります。

雪/の/うち/に/春/は/き/に/けり/鶯/の/こほれ/る/涙/いま/や/とく/らん



- 雪-の、雪-うち、雪-に、雪-春、雪-は、雪-き、雪-に、雪-けり、雪-鶯、雪-の、雪-こほれ、雪-る、雪-涙、雪-いま、雪-や、雪-とく、雪-らん
- の-うち、の-に、の-春、の-は、の-き、の-に、の-けり、の-鶯、の-の、の-こほれ、の-る、の-涙、の-いま、の-や、の-とく、の-らん
- うち-に、うち-春、うち-は、うち-き、うち-に、うち-けり、うち-鶯、うち-の、うち-こほれ、うち-る、うち-涙、うち-いま、うち-や、うち-とく、うち-らん
- に-春、に-は、に-き、に-に、に-けり、に-鶯、に-の、に-こほれ、に-る、に-涙、に-いま、に-や、に-とく、に-らん
- 春-は、春-き、春-に、春-けり、春-鶯、春-の、春-こほれ、春-る、春-涙、春-いま、春-や、春-とく、春-らん
- は-き、は-に、は-けり、は-鶯、は-の、は-こほれ、は-る、は-涙、は-いま、は-や、は-とく、は-らん
- き-に、き-けり、き-鶯、き-の、き-こほれ、き-る、き-涙、き-いま、き-や、き-とく、き-らん
- に-けり、に-鶯、に-の、に-こほれ、に-る、に-涙、に-いま、に-や、に-とく、に-らん
- けり-鶯、けり-の、けり-こほれ、けり-る、けり-涙、けり-いま、けり-や、けり-とく、けり-らん
- 鶯-の、鶯-こほれ、鶯-る、鶯-涙、鶯-いま、鶯-や、鶯-とく、鶯-らん
- の-こほれ、の-る、の-涙、の-いま、の-や、の-とく、の-らん
- こほれ-る、こほれ-涙、こほれ-いま、こほれ-や、こほれ-とく、こほれ-らん
- る-涙、る-いま、る-や、る-とく、る-らん
- 涙-いま、涙-や、涙-とく、涙-らん
- いま-や、いま-とく、いま-らん
- や-とく、や-らん
- とく-らん

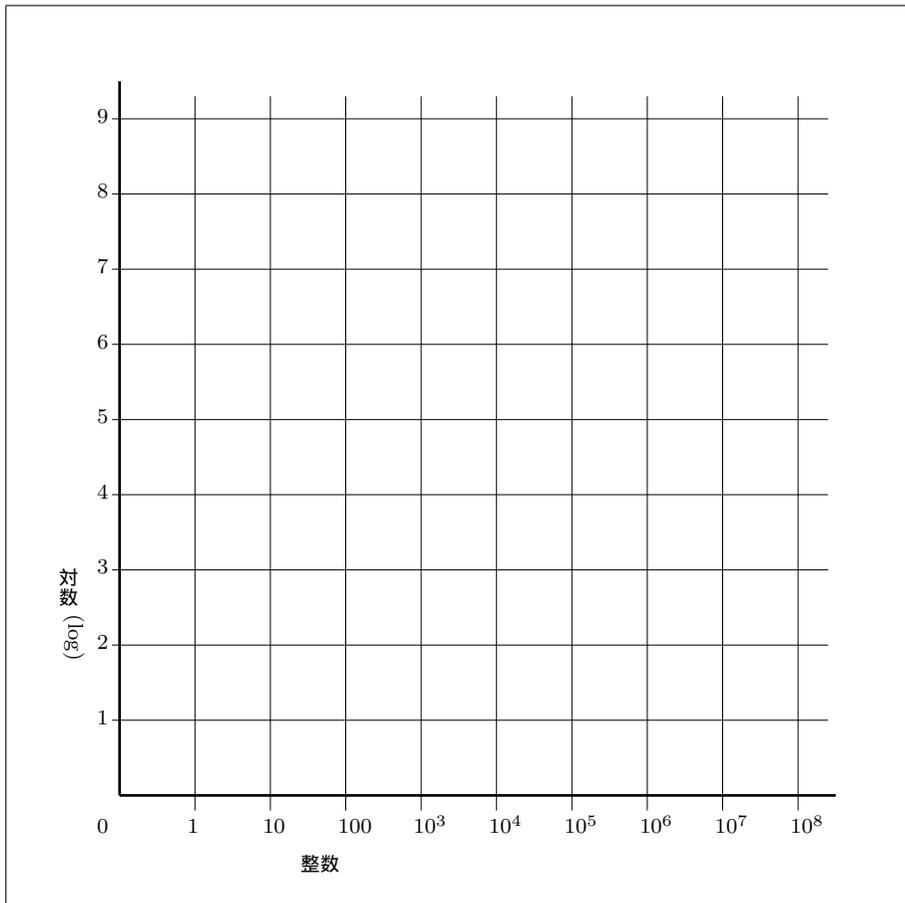
こりゃ、手で書くと大変だね。

問 34 さきほどの自分の作った文の単語を使って、ペアのリストを作ってみましょう。

Note

【練習】

対数の復習: 1, 10, 100, 1000, … など、関数電卓を使って、グラフを描いてみよう。



第3章

方法

3.1 めずらしい語とどこにでも見られる語

問 35 どこにでも見られることばを書いてみよう。

問 36 今度はどこでも見られないめずらしいことばを書いてみよう。

3.2 「文書頻度」という考え方

ある単語が多いか少ないかという考え方をやめて、「どこでも見られる」「どこでも見られない」という基準を考えてみます。

問 37 100 の文章があったとします。その 100 の文章のうち、100 すべてにでてくることばはどんなことばでしょう。

問 38 100 の文章があったとします。その 100 の文章のうち、10 の文章ぐらいに出てくることばはどんなことばでしょう。

3.3 単語に重さをつける

単語の価値を数字で表すことを「重み付け」と言います。*idf* (インバース・ドキュメント・フリークエンシー) を使います。

3.4 *idf* の計算方法

「うぐいす」は、古今集の中に、26 回出てきます。古今集の歌数は実際には 1,111 首ですが、長歌や旋頭歌 (国語便覧 p. 38) など長さの違う和歌もあるので、57577 の 31 文字の短歌の 1,000 首を使うことにしましょう。計算式は次のようになります。

$$idf(t) = \log \frac{N}{df(t)} \quad (3.1)$$

式 3.1 は *idf* と書いて、inverse document frequency (インバース・ドキュメント・フリークエンシー) と呼びます (Robertson 2004)。

ためしに、「うぐいす」(26 の和歌に使われている) を計算してみますと、

$$idf(\text{うぐいす}) = \log \frac{1000}{df(26)} \quad (3.2)$$

$$= \log 38.461\dots \quad (3.3)$$

$$= 1.585\dots \quad (3.4)$$

$$(3.5)$$

問 39 つぎのことばの *idf* を計算してみましょう。

1. 梅 (名詞) 23 首
2. 桜 (助詞) 43 首
3. 居る (動詞) 111 首
4. 鳴く (動詞) 104 首
5. に (助詞) 871 首
6. を (助詞) 462 首

3.5 $tf\cdot idf$ の計算方法

$w(t, N)$ は $tf(t)$ と $idf(t)$ の積、つまり掛け算です。 $tf(t)$ とは実際に出てきた数、いわゆる頻度（ひんど）です。和歌の場合はだいたい1首に1語しか出てきません。

$$w(t, N) = (1 + \log tf(t)) \cdot idf(t, N) \quad (3.6)$$

問 40 $tf(t) = 26$, $t = 26$, $N = 1,000$ を代入して計算してみましょう。対数を計算する時には、電卓で \log のボタンを使いましょう。

3.6 対数

対数関数 $\log(x)$ は、少し大雑把な言い方ですが、大きい数の間隔は小さく、小さい数の間隔は大きくするものです。たとえば、つぎの2つの場合の1秒という時間の間隔について考えてみましょう。

問 41 100メートル走の1秒とフルマラソン (42.195km) の1秒の差ではどちらが競り合っていたのでしょうか。

問 42 人間の感覚が対数的な判断であることはよくいわれています。(感覚尺度 (東他 1973: 81)) 人間の感覚にはどんなものがあるかを考えてみましょう。

たいすう【対数】数学

1でない正の数 a と正の数 N との間に $N = a^b$ の関係がある時、その b のこと。 b を、 a を底 (てい) とする N の「対数」と言い、 $\log_a N$ で表す。10を底とする常用対数や、 e を底とする自然対数を、単に「対数」で指す場合が多い。(Wikipedia)

3.7 グラフ理論超簡単入門

グラフはノード（点）とエッジ（線）で、あらかず 2 点の関係を表す図形です。次の図 3.1 ように文や絵、抽象的な関係を図で表すことができます。

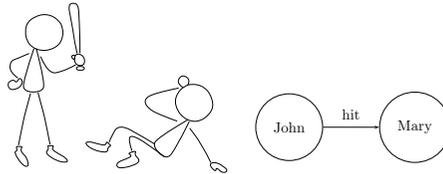


図 3.1 絵をネットワークモデルに当てはめる。“John hits Mary” を単純なネットワークモデルに変換する。

グラフを書くソフトウェアには Graphviz (Ellson et al. 2005) が無料で利用できます。グラフを書くには、次の図 3.2 のような DOT 言語 (Gansner 2002) を使ってプログラムで処理すれば、複雑な図形もすぐに描くことができます。

```
graph G {
graph[fontname="mincho"]
graph[center=1]
node[height=0, width=0, style="setlinewidth(.4)"]
edge[style="setlinewidth(.4)"]
edge[fontname="mincho"]

"春" [shape=ellipse fontsize=15];
"声" [shape=ellipse fontsize=12];
"鶯" [shape=ellipse fontsize=26];
"鳴く" [shape=ellipse fontsize=20];

"春" -- "鶯" [label=121 fontsize=8];
"春" -- "鳴く" [label=87 fontsize=8];
"声" -- "鶯" [label=69 fontsize=8];
"声" -- "鳴く" [label=55 fontsize=8];
"鶯" -- "鳴く" [label=190 fontsize=8];
}
```

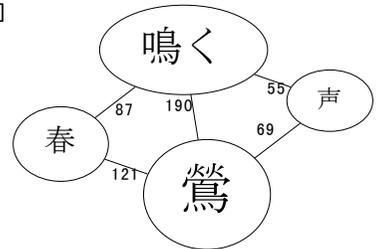


図 3.2 DOT 言語の例（左）とそのグラフ出力（右）：このグラフは 4 つのノードと 5 つのエッジを含む。

第4章

結果

4.1 知りたいことばをプリントアウトしてみよう！

問 43 「歌ことばのコンピュータモデリング」(<http://warbler.ryu.titech.ac.jp/~yamagen/waka/poem-j.cgi>)を使って、ネットワークを出力してみよう。たとえば:

1. 花の名称
2. 鳥の名称
3. 地名 (国語便覧 p. 48)
4. 風
5. 季節

4.2 2つのことばを比較しよう！

問 44 「歌ことばのコンピュータモデリング」にはもうひとつ combined model (<http://warbler.ryu.titech.ac.jp/~yamagen/waka/poem2.cgi>) というメニューがあります。2つのことばを入力すると2つのネットワークを一緒に出力します。何か比較してみましょう。たとえば:

1. 梅と桜
2. 夏と春
3. うぐいすのほととぎす
4. 2つの地名 (国語便覧 p.48)

第 5 章

考察

5.1 ことばの意味はどんな意味？

問 45 ネットワークの図を見ながら、どんな意味があるのかを考えよう。

5.2 この意味はいつまでこの意味？

問 46 ことばの意味は同じ意味がずっと続くのか、どんどん変わるのかを考えよう。

Note

第6章

おわりに

6.1 ここまでをまとめてみよう！

1. ことばの意味は1つのことばではわからない。
2. ことばの意味はどんどん変わっている？
3. 今もどんどんことばの意味は変わっている？
4. 昔を知るには何が必要？
5. 研究するということって何？

問 47 どうすれば、2つのものを比べることができますか。

問 48 自分の経験で今までに比べたことがあるものを書いてみよう。

問 49 比べた結果、どんな特徴が2つのものにありますか。

6.2 今日のセミナーを夏休みの自由課題に

問 50 今日のセミナー内容を「はじめに」「方法」「結果」「考察」「おわりに」「文献」の形でまとめてみよう。

付録 A

うぐいすの歌

1. 雪のうちに / 春はきにけり / 鶯の / こほれる涙 / いまやとくらん (4 二条后)
2. 梅かえに / きある鶯 / 春かけて / なけともいまた / 雪は降つゝ (5 読人不知)
3. 春たては / 花とや見らん / 白雪の / かゝれる枝に / うくひすのなく (6 素性)
4. はるやとき / 花やをそきと / きゝわかん / 鶯たにも / なかすも有哉 (10 言直)
5. 春きぬと / 人はいへとも / 鶯の / なかぬかきりは / あらしとぞ思ふ (11 忠岑)
6. 花のかを / 風のたよりに / たくへてそ / 鶯さそふ / しるへにはやる (13 友則)
7. 鶯の / 谷より出る / 聲なくは / 春くることを / たれかしらまし (14 千里)
8. はるたてと / 花も匂はぬ / 山さとは / 物うかるねに / 鶯そなく (15 棟梁)
9. のへちかく / いへぬしをれは / 鶯の / なくなる聲は / 朝な朝なきく (16 読人不知)
10. おりつれば / 袖こそ匂へ / 梅花 / ありとやこゝに / 鶯のなく (32 読人不知)
11. 鶯の / かさにぬふてふ / 梅花 / おりてかさゝん / 老かくるやと (36 常)
12. まつ人も / こぬ物ゆへに / 鶯の / なきつる花を / 折てける哉 (100 読人不知)
13. 鶯の / なく野邊ことに / きてみれば / うつろふ花に / 風そ吹ける (105 読人不知)
14. 吹風を / なきてうらみよ / 鶯は / われやは花に / てたにふれたる (106 読人不知)
15. ちる花の / なくにしとまる / 物ならば / 我鶯に / おとらましやは (107 治子)
16. 花のちる / ことやわひしき / 春霞 / 立田の山の / 鶯のこゑ (108 後蔭)
17. しるしなき / ねをもなくかな / 鶯の / ことしのみちる / 花ならなくに (110 躬恒)
18. 鳴とむる / 花しなれば / 鶯も / はては物うく / 成ぬへら也 (128 貫之)
19. 聲たえず / なげや鶯 / 一とせに / 二たひとたに / くへき春かは (131 興風)
20. 今いくか / 春しなれば / うくひすも / ものはなかめて / 思ふへら也 (428 貫之)
21. わかそのゝ / 梅のはつえに / 鶯の / ねに鳴ぬへき / 戀もする哉 (498 読人不知)

22. 我のみや / よをうくひすと / 鳴侘ん / 人の心の / 花とちりなは (798 読人不知)
23. よにふれは / 言の葉しけき / 呉竹の / うきふしことに / 鶯そなく (958 読人不知)
24. 梅の花 / みにこそきつれ / 鶯の / ひとく ひとく と / いとひしもをる (1011 読人不知)
25. 鶯の / こそのやとりの / ふるすとや / 我には人の / つれなかるらん (1046 読人不知)
26. あをやきを / かたいとによりて / 鶯の / ぬふてふかさは / 梅の花かさ (1081 読人不知)

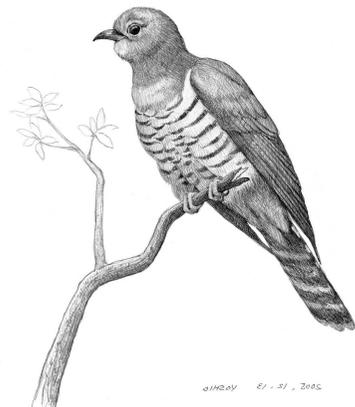


付録 B

ほととぎすの歌

1. 我やとの / 池の藤なみ / さきにけり / 山郭公 / いつかきなかん (135 読人不知 / 人麿)
2. さつきまつ / 山時鳥 / うちはふき / いまもなかなん / こそのふるこゑ (137 読人不知)
3. 五月こは / なきもふりなん / 郭公 / またしきほと / 聲をきかはや (138 伊勢)
4. いつのまに / さつきぬらん / 足曳の / 山郭公 / いまそ鳴なる (140 読人不知)
5. けさきなき / いまた旅なる / 時鳥 / 花たち花に / やとはからなむ (141 読人不知)
6. 音羽山 / けさこえくれは / 郭公 / 梢はるかに / いまそなくなる (142 友則)
7. 時鳥 / はつ聲きけは / あちきなく / ぬしさたまらぬ / 戀せらるはた (143 素性)
8. いその神 / ふるき宮この / 郭公 / こゑはかりこそ / 昔なりけれ (144 素性)
9. 夏山に / なくほととぎす / 心あらは / 物思ふ我に / こゑなきかせそ (145 読人不知)
10. 郭公 / なく聲きけは / 別にし / 故郷さへそ / 戀しかりける (146 読人不知)
11. 時鳥 / なかなか里の / あまたあれは / 猶うとまれぬ / 思ふ物から (147 読人不知)
12. おもひいつる / ときはの山の / 郭公 / から紅の / ふり出てそなく (148 読人不知)
13. こゑはして / 涙は見えぬ / 郭公 / わか衣ての / ひつをからなん (149 読人不知)
14. 足曳の / 山郭公 / おりはへて / 誰かまさると / ねをのみそなく (150 読人不知)
15. 今さらに / 山へかへるな / 郭公 / 聲のかきりは / 我宿になけ (151 読人不知)
16. やよやまて / 山時鳥 / ことつてん / 我世中に / すみわひぬとよ (152 三国町)
17. さみたれに / 物思ひをれは / 時鳥 / 夜ふかく鳴て / いつち行らん (153 友則)
18. よやくらき / 道やまとへる / 郭公 / 我宿をしも / 過かてになく (154 友則)
19. やとりせし / 花橋も / かれなくに / なんと時鳥 / 聲たえぬらん (155 千里)
20. 夏の夜の / ふすかとすれは / 郭公 / 鳴一こゑに / あくるしのとめ (156 貫之)
21. くるかと / みれはあけぬる / 夏の夜を / あかすとやなく / 山郭公 (157 忠岑)

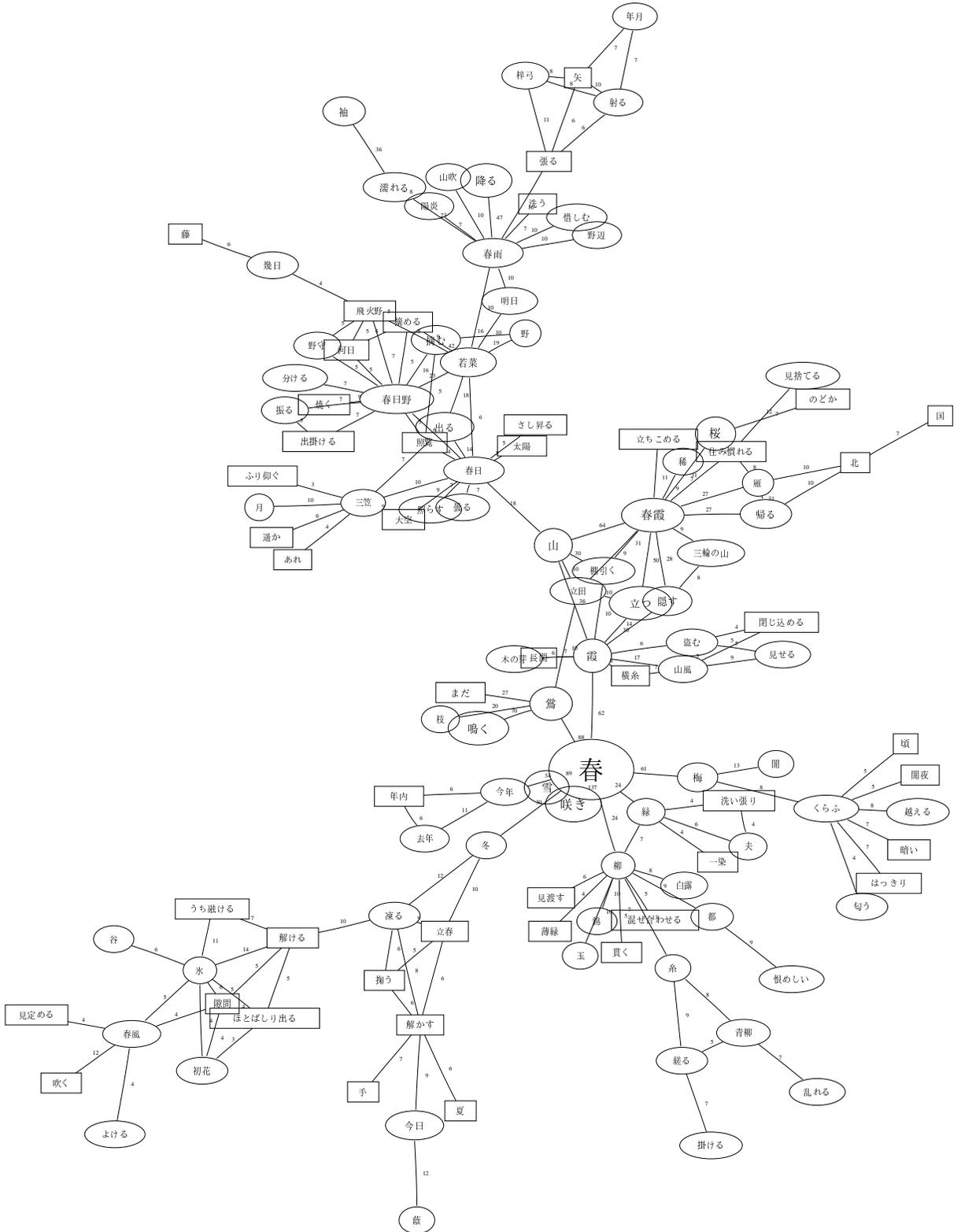
22. 夏山に / 戀しき人や / いりにけん / こゑふりたてゝ / なく郭公 (158 秋岑)
23. こその夏 / 鳴ふるしてし / 時鳥 / それがあらぬか / 聲のかはらぬ (159 読人不知)
24. 五月雨の / 空もとゝろに / 時鳥 / なにをうしとか / よたゝ鳴らん (160 貫之)
25. 郭公 / こゑもきこえず / 山ひこは / ほかに鳴ねを / こたへやはせぬ (161 躬恒)
26. 時鳥 / 人まつ山に / なくなれば / 我うちつけに / 戀まさりけり (162 貫之)
27. むかしへや / 今も戀しき / 時鳥 / 故郷にしも / 鳴てきつらん (163 忠岑)
28. 時鳥 / われとはなしに / うの花の / うき世中に / なき渡るらん (164 躬恒)
29. めつらしき / 聲ならなくに / 時鳥 / こゝらのとしを / あかすも有かな (359 友則)
30. をとは山 / こたかくなきて / 郭公 / 君かわかれを / おしむへら也 (384 貫之)
31. 郭公 / みねの雲にや / ましりにし / ありとはきけと / 見るよしもなき (447 篤行)
32. 郭公 / 鳴やさ月の / あやめ草 / あやめもしらぬ / 戀もする哉 (読人不知 469)
33. 足曳の / 山郭公 / わかことや / 君にこひつゝ / いねかてにする (読人不知 499)
34. 我ことく / 物やかなしき / 郭公 / 時そともなく / よたゝ鳴らん (敏行 578)
35. さ月やま / 梢をたかみ / 郭公 / なくね空なる / 戀もする哉 (貫之 579)
36. 郭公 / 夢かうつゝか / 朝露の / おきてわかれし / 暁の聲 (読人不知 641)
37. たかりに / よかれをしてか / 時鳥 / たゝこゝにしも / ねたるこゑする (読人不知 710)
38. 忘なん / 我をうらむな / 郭公 / 人の秋には / あはんともせす (読人不知 719)
39. 郭公 / けさ鳴こゑに / おとろけは / 君にわかれし / 時にそ有ける (貫之 849)
40. なき人の / やとにかよはゝ / 郭公 / かけてねにのみ / なくとつけなむ (読人不知 855)
41. いくはくの / たをつくれはか / 郭公 / してのたをさを / 朝な 朝な よふ (敏行 1013)



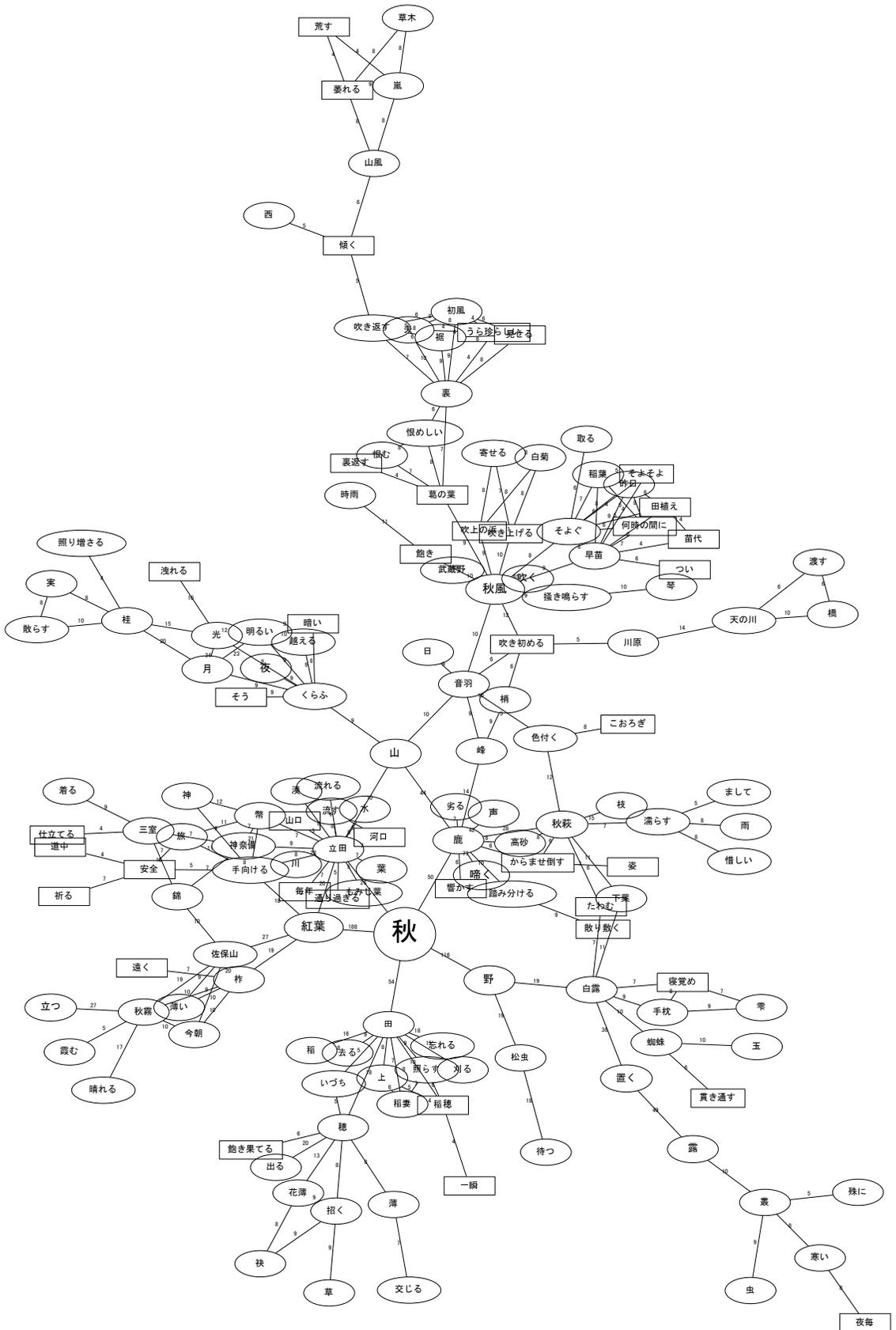
付録 C

春と秋のネットワーク

古今和歌集(905年頃)(浜島書店編集部 2014: p. 58 参照)には春秋の和歌があり、そのうち、春上(巻1: 1-68)と春下(巻2: 69-134)は春を詠んだ歌である。134首のうち、実際に「春」という語が含まれている歌は90首である。同様に、秋上(巻4: 169-248)と秋下(巻5: 249-313)は秋を詠んだ歌である。145首のうち、実際に「秋」という語が含まれている歌は133首である。



春 (90/652.2.68): CT cw.>15.6;
non-dist=off; idf=on(2)



秋 (133/988, 2.26) : CT cw.>16;
 non-dist=off; idf=on(2)

Notes

文献

東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保（編）（1973）『心理用語の基礎知識: 概念の正確な理解と整理』, 有斐閣 .

Ellson, John, Emden Gansner, Yehuda Koren, Eleftherios Koutsofios, John Mocenigo, Stephen North, Gordon Woodhull, David Dobkin, Vladimir Alexiev, Bruce Lilly, Jeroen Scheerder, Daniel Richard G., and Glen Low (2005) “Graphviz — Graph Visualization Software”, <http://www.graphviz.org/>. Page cited on 4th Feb. 2005.

Gansner, Emden R. (2002) “The DOT language”, <http://www.research.att.com/~erg/graphviz/info/lang.html/>.

浜島書店編集部（編）（2014）『国語便覧巻頭増補版』, 浜島書店 .

Robertson, Stephen (2004) “Understanding inverse document frequency: on theoretical arguments for IDF”, *Journal of Documentation*, Vol. 60, pp. 503–520.

Notes

裏表紙について



裏表紙の写真は日時計です。そこにはラテン語で“Carpe Diem”（カルペ・ディアム）と彫ってあります。その意味は「その日を摘め（そのひをつめ）」で、紀元前1世紀の古代ローマの詩人ホラティウスの詩に登場する語句です。「一日の花を摘め」、「一日を摘め」などとも訳されますが、「その日を楽しみ、精一杯いきること」と考えることができます。このことばは、映画「いまをいきる」ロビン・ウィリアムズ主演の中に出てきます。



クイントゥス・ホラティウス・フラックス
 Quintus Horatius Flaccus
 BC.65.12.8–BC.8.11.27
 古代ローマ時代の南イタリアの詩人

目で見てわかる昔の日本語と今の日本語
 — タイムマシンに乗らずに行ける昔の世界 —
 ワークブック

2015年8月5日第1版

2015年8月9日第2版

著者: 山元啓史

©2015 Hilofumi Yamamoto



CARPE DIEM